

平成 26 年度 第 3 回 COC 実施本部会議 議事録

平成 26 年 11 月 4 日 (火)

16:40~17:00

場所：本部大会議室

出席者：清水学長・齋藤教育開発センター長・田浦学生部長・西谷事務局長・木村企画部長・橋本地域連携推進室担当課長・水本学生支援部長・山村教務担当課長

*欠席者：岡野研究開発推進センター長

【議題】

1. 「地域課題学修支援室」特命教員について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から説明があった。

- ・学内推薦は一旦締め切りとなっているが、募集を延長(3名候補者の目途をつけており、現在交渉中。)
- ・12月教授会で選考検討をお願いしたい。

審議の結果、異議なく了解された。

2. 「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議の進捗状況について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から説明があった。

- ・当初、毎週金曜日開催予定としていたが、木曜日開催に変更。現在は圏域自治体企画担当課長に参加いただき、18時からほぼ2週間に1回のペースで開催、現在4回終了。
- ・オブザーバーとして櫻井教授に参加を要請。ご本人の了承をいただき、前回(第4回)会議からご参加いただいている。

(現在検討中の事項)

「伊勢志摩定住自立圏共生学」(2年次4科目)科目内容

- ・4科目のうち、科目Ⅰ、Ⅱの内容及び担当について自治体担当者と協議中。
→自治体によって事業に対する理解及び協力姿勢に濃淡がある為、調整しながらの協議

圏域内視察

- ・圏域内視察についても自治体によって協力姿勢に濃淡があるので、本学から視察場所等を提案する形で話を進めていきたいと考えている。
- ・当初、自治体職員を含む運営会議メンバー全員が参加という計画であったが、終日自治体職員メンバー全員が参加することは不可能に近い状況のため、教員4名(齋藤教授、筒井教授、笠原教授、板井准教授が)と大学事務サイド中心に視察をし、自治体職員メンバーは可能であれば参加という形式に変更予定。

<質疑応答>

(問)教科書作成時期について

→科目Ⅰ・ⅡについてはH28年度予算、科目Ⅲ・Ⅳ補助教材については平成29年度予算

(問)科目Ⅲ、Ⅳの授業担当者について

→現在、三重銀総研で内容・担当者について原案立案中。

審議の結果、異議なく了解された。

3. 自己点検・評価委員会及び外部評価委員会の開催について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から説明があった。

- ・外部評価委員3名についてはすでにご本人の了承及び各所属大学からの承諾をいただいている。
- ・第1回外部評価委員会は平成26年11月15日（土）開催で、内容は事業計画の説明、了承を受けることを中心に予定（平成26年度の事業報告については平成27年3月開催）。

審議の結果、異議なく了解された。

4. 伊勢志摩における定住自立圏に関する基礎的研究について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から説明および報告があった。

- ・本研究は、圏域内居住者の意識や構成員の年齢構成等基礎的データを集めるための基礎的研究で、筒井教授を研究代表者として篠田学術振興基金に申請を行った。
- ・木村企画部長から上記基礎研究を行うことで、①授業内容を構築する上で基礎データとなる②圏域市町へフィードバックできる③補助金の対象事業内容ではないが、COC事業の研究成果の1つとして報告ができるなどの必要性が考えられるとの補足説明があった。

審議の結果、異議なく了解された。

5. 国内先行事例視察報告について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長から説明があった。（詳細については配布資料参照）

<岩手大学>地域資源を活かして学生を地域に定着させることを目的としている。

震災復興支援を中心に地域でのインターンシップ活動を行っている。

圏域自治体職員を「共同研究員」として受け入れなどを実施。

中心科目である「いわて学」の体系性等については開発途上という印象

<滋賀県立大学>近江楽土という体系的な副専攻プログラムをベースにした教育プログラム及び課外活動を多く取り入れた取組み。本学の今後の参考になる。

*今後、島根大学（人口減少）、長崎県立大学（6次化）、信州大学（地域特性を活かした未来学）を先行事例として視察予定している（今年度中）。

審議の結果、異議なく了解された。

6. その他

特記事項なし